

日中両国語の助詞「の」と「的」の比較研究

陳 月 吾

A Comparison between the Japanese particle “no” and the Chinese particle “de”

Yuewu Chen

ABSTRACT

The ways of using the Japanese particle “no” and the Chinese particle “de” are examined and compared.

The situations where the two particles are equivalent and where they are not equivalent are indicated.

まえがき

中国語を全然知らない日本人にとっても、また日本語を知らない中国人にとっても映画、テレビ、スローガンなどから日本語の「の」は中国語の「的」に等しいと思うようになる。確かに次の文で示されるように中国語の「的」は日本語の「の」と対応している。すなわち文の中で対応できる場合がある。

例：① 私の机／我的桌子

② 今日の「朝日新聞」／今天的《朝日新聞》

③ 私は赤いのが好きだ。／我喜歡紅的。

しかしすべての助詞「の」と「的」は対応できるのか、異なる所はないだろうか。次の例文を見てみよう。

例：④歌のうまいのが評判だ。／歌唱得好出了名。

⑤ こんなことをするのはいやだ。／我不喜歡幹這種事。

上の例文の「の」は中国語の「的」と対応できない。それゆえ、以上のことから「の」と「的」の意味及び使い方は決して簡単ではない。このことを本稿では深く考察してみる。

1. 日本語の助詞「の」について

日本語の「の」は附属語であり、格助詞、並立助詞、準体助詞、終助詞として用いられている。

すなわち、

1-1 格助詞として使用される場合

体言またはこれに準ずるものにつき、次の2つの使い方がある。

イ) 所有格助詞として

上の体言とともに下の体言を修飾して、この助詞を示す格は体言を修飾するので、連体修飾格と言われる。意味としては主に所有あるいは所属を表わすので「所有格」とか所属格とも呼ばれる。上下の体言の意味あるいは前後関係によって所有、所属、期間、作者、内容的関連、名称、同格など多様な意味がある。

例：⑥ 6時のニュース / 六点的新聞

⑦ 紫式部の「源氏物語」 / 紫式部的《源氏物語》

⑧ 先生への手紙 / 給老師的信

ロ) 対象格助詞として

連体修飾句または体言扱いされた句の中に用いられて主格あるいは対象格を示す場合がある。

例：⑨ 科学の進歩する時代 / 科学發達の時代

⑩ 先生のおっしゃった事 / 老師說的事

⑪ 英語の話せる人 / 能說英文的人

1-2 並立助詞として使用される場合

体言または用言の連体形につき同類かまたは対照的な物事を畳み込む調子で列挙する。すなわち、

例：⑫ 高いのと安いのもって少しも買わない。 / 光說貴，便宜，連一点都不買。

⑬ どののこうのと難しいばかり言う。 / 這樣幹，那樣幹尽出難題。

1-3 準体助詞

イ) 体言につく。ついた形全体で体言扱いになる。上の体言の表わす事物に所属または関係しているもの、ことなどを表わしているか、あるいは格助詞用法で修飾されるべき、下の名詞を省略したものとも言われる場合がある。

例：⑭ この本は私のです。 / 這本書是我的。

⑮ 田中さんのが一番いい。 / 田中的最好。

ロ) 連体形で終る語句あるいは連体詞につく。ついた形全体が体言扱いになる。「…する人」「…する物」「…する事」などの意を示す場合がある。

例：⑯ 丈夫で安いのがいい。(の=物) / 既結實又便宜的才好。

⑰ 車を運転しているのがぼくの兄だ。(の=人) / 開車的是我哥々。

⑱ 約束したのに、来るのが遅いね。(の=来ること) / 約好了，却来得這樣晚。

ハ) 用言を受けて体言化した語句に「だ」「か」を伴って判断、説明及びその疑問を表わす。

例：①切符は私が買ったのです。／票是我買的的。

②そう言えば、その時おれも悪かったのだ。／如此説来，当時我也不对。

1-4 終助詞として使用される場合

準体助詞「の」から転じたもので、活用語の連体形につき状況の判断と説明、疑問、感動、指示、命令などの意に用いられる。主として女性や子供が用いる。

例：③とても景色がいい所なの。／是個風景優美的地方。

④本屋へ行くの。／去書店嗎？

⑤太郎君，黙ってるの。／太郎，別說了。

2. 中国語の助詞「的」について

中国語の「的」も単に文節になれなくてほかの語につき文法的な意味しか示さない虚詞（附属語）である。中国語では「的」は「結構助詞」と「語気助詞」として用いられる。

2-1 結構助詞として使用される場合

「的」は語（連詞、嘆詞、助詞注を除く）または連語につき、ついた語または連語全体は名詞に相当する。中国語では「的」字結構と呼ばれる。主な使い方は次の通りである。

名詞を修飾して、所属、所有、同格、期間、場所、性質、状態などの意を示す。

例：⑥我的哥々　／ばくの兄

⑦走路的人　／歩いている人

しかし重ねを避けるために名詞の代りに用いられる。

例：⑧他的東西多，我的少。／彼の荷物は多くて私のは少ない。

⑨附属高中的来了没有？／附属高校のは来たか。

例⑩は東西，⑪は学生か老師，職工を省略した。

以上の「的」字結構は文の中に主として主語か目的語に用いられる。しかしもし前に「是」があったら「是…的」という形で述語に使われる。

例：⑫書是他的。／本は彼のだ。

⑬我的箱子是木頭的。／私の箱は木のだ。

その他「動十得」という形につきその結果を表わす補語に用いられる。

例：⑭写得清々楚楚的。／はっきりと書いてある。

ただし、この場合はただ形容詞連語、形容詞の重ね型及び4字語だけに限る。

2-2 語気助詞として使用される場合

文末につき次の意を表わす。

イ) 肯定の語気を強める。

例：㉑他馬上要走的。／彼はすぐ行くのだ。

ロ) 已然のことを表わす。常に語気を示す「是」とともに完了した動作の修飾的要素（例えば、主体、時点、方式、場所、目的など）を強調する。

例：㉒他是去年來日本的。／彼は去年日本に來たのだ。

㉓我是乘火車去的。／私は汽車で行ったのだ。

注意しなければならないのは例㉒の「書是他的」の中の「是…的」と意味が違う。「書是他的」の中には「是」は判断詞で「他的」は「的」字結構で「是他的」は判断合成述語と呼ばれる。「是」は省略してはいけない。例㉒㉓の中の「是」は肯定の語気を表わす副詞で「的」は強調の語気を示す語気助詞である。この場合「是」は省略しても意味がかわらない。

3. 「の」と「的」との比較

以上の考察からも分るように日本語の助詞「の」と中国語の助詞「的」は具体的な意味はない。両方とも附属語で外の語または句について始めて文法的な意味を表わすことができる。ただ「の」は「的」より次の表の通り広く使われる。

「の」の使い方

名 称	例 文
格 助 詞	学校の建物 ボールペンのほしい人はいないか
並立助詞	高いのと安いのとって少しも買わない。
準体助詞	丈夫で安いのはいい。
終 助 詞	とても景色がいい所なの。

「的」の使い方

名 称	例 文
結構助詞	老師的研究室 走路的人
語気助詞	他今天會回來的是誰買的

これからその付き方及び使い方を比較してみよう。

3-1 格助詞の場合

所有格助詞

イ) 名 詞

名詞に「の」がつき所有、所属、期間、同格、作者の名前などの意を表わすときに対応するのは結構助詞「的」である。

例：㉔店の人　／店里的人

㉕時計の針　／手表的指針

しかし、両方とも専門化した語にはつかない。

例：㉖歴史小説　／歷史小說

㉞ 烏龍茶 / 烏龍茶

日本語では専門名詞以外に殆ど「の」がつくが中国語では制限はそれほど厳しくないようだ。

例：㉟ 富士山のふもと / 富士山麓

㊱ 木の箱 / 木箱子

ロ) 代名詞

代名詞の場合対応できる。

例：㊲ 彼の意見 / 他的意見

代名詞には原則的には日本語は「の」中国語には「的」がつくのだが中国語では修飾される名詞は国家、集団、親戚などの場合、「的」はつけなくてもいい。日本語では「の」はつけなければならない。

例：㊳ 私の学校 / 我校

㊴ 彼の妹 / 他妹々

ハ) 数 詞

次の場合、日本語では「の」がつくが中国語では「的」が一般的につかない。

例：㊵ 3匹のお魚 / 三条魚

㊶ 30人の学生 / 三十名学生

ニ) 形容詞

日本語は形容詞の連体形直接名詞が修飾できるので「の」はついてはいけませんが中国語では一字の形容詞は一般的に「的」はつかないけれども強調する場合はつく。

例：㊷ 赤い花 / 紅花

㊸ 新しい歴史的時期 / 新的歴史時期

中国語の2字の形容詞は一般的に「的」がつく。

例：㊹ 美しい桂林 / 美麗的桂林

しかし、習慣か修辞などの原因のためつかない場合もある。

例：㊺ 正直な人 / 老实人

ホ) 形容動詞

日本語の形容動詞には「の」はつけない。中国語には形容動詞という品詞はないので形容動詞に対応するのは形容詞である。上の「ニ」に参照。

ヘ) 動 詞

日本語の動詞に格助詞「の」はついてはいけませんが中国語ではつけなければならない。

例：㊻ 歩いている人 / 走路的人

㊼ 予約したチケット / 予訂的票

中国語の他動詞では「的」つくつかないか意味がだいぶん違う。

例：㊽ 予約したチケット / 予訂的票

㊾ チケットを予約する / 予訂票

ド) 副 詞

日本語では一部の副詞に「の」をつけるが中国語でそれに対応できる。

例：⑤③少しの^の違い / 微小的^的差別

⑤④しばらくの^の別れ / 短暫的^的離別

チ) 連 語

日本語では用言的な連語に「の」はついてはいけませんが体言的な連語につく。それに対して、中国語では必ず「的」はつかなければならない。

例：⑤⑤質の^のいい品物 / 質量好的^的東西

⑤⑥この本に対する意見 / 対這本書的^的意見

⑤⑦クラスメートの山下君の^の車 / 同学山下的^的車

リ) 助 詞

日本語では「の」は「が、に、を」以外の格助詞及び殆どの複合助詞につけるが中国語では助詞に「的」はついてはいけない。しかし、日本語のそれに対応できるのは前置詞の連語である。

例：⑤⑧母への^の手紙 / 給母親的^的信

⑤⑨コンピューターについての^の本 / 關於計算機的^的書

意味から言えば前に述べたように日本語の所有格を表わす「の」は上の体言か体言あつかいものとともに下の体言を修飾する。所有、所屬、期間、内容的関連、作者、名称、同格などを表わす。中国語の結構助詞「的」はこれに対応できるがただ、中国語の「的」は上述の意味以外に性質、状態などの意味が表わせる。それゆえに形容詞、動詞にもつける。

対象格助詞

前に述べた連体修飾句或いは体言扱いされた句の中に用いられる主格または対象格を表わす「の」は中国語には対応する「的」の使い方がない。

例：⑥⑩雪の^の降っている時、出掛けない。 / 下雪時，不出去。

その他，例文⑨⑩⑪参照。

3-2 並 立 助 詞

日本語の並立助詞「の」と対応する「的」の使い方はない。

例：⑥⑪なんの^のかんの^ので金がいる。 / 様々都要錢。

その他，例文⑫⑬参照。

3-3 準 体 助 詞

イ) 体言につく日本語の準体助詞「の」は日本語では格助詞の使い方下での名詞を省略したものとも言われる。それに対応するのは中国語の結構助詞「的」である。同じように下の名詞も省略できる。

例：⑥②それは弟のだ。／那是弟々的。

その他，例文⑭⑮参照。

ロ) 日本語の用言連体形につき「人，物，事」などの意を表わす準体助詞「の」は「人，物」に相当する場合，中国語の結構助詞「的」に対応できる。

例：⑥③町には人出が多い。散歩するのもおれば，買物をするのもいる。(の＝人)／街上人多，有散歩的，有買東西的。

そのほか，例文⑯⑰参照。

しかし，文中の準体助詞「の」は抽象的な事に相当する場合，中国語には対応する「的」の使い方はない。

例：⑥④怒るのは当然だ。／当然発火。

ハ) 用言を受けて，体言化した語句に「だ」「か」を伴って判断，説明及び疑問を表わす場合，実は「…は…のだ」という文型にまとめる人もいる。日本語の「…は…のだ」は中国語の語気助詞「の」の「…是…的」と一部対応できる。

すでに完了した行為につきそれに関する修飾的要素すなわち主体，時点，方式，場所，目的などを強調するときに対応できる。

例：⑥⑤山田さんは留学に来たのだ。／山田是来留学的。

⑥⑥だれが書いたのか。／是誰写的。

判断，説明など話し手の見方を表わす場合その内容は未然のことか時点とは関係がない時，対応できる。

例：⑥⑦2，3日のうちになおるのだ。／兩三天之内会好的。

⑥⑧魚は新鮮なのだ。／魚是挺新鮮的。

ただしこの場合の「…是…的」は一部の形容詞か可能動詞＋動詞の文に限る。「是」は省略してもいい。

日本語の「…は…のだ」は中国語の「…是…的」より広く使われているので上述以外に対応できないようだ。

3-4 終 助 詞

日本語の活用語の連体形につく終助詞「の」に対応する中国語の「的」の使い方がない。

例：⑥⑨学校へ行くの。／去学校嗎？

その他，例文⑳㉑㉒参照。

ま と め

以上の考察から次のことが言えると思う。

1. 品詞から言えば「の」と「的」とも附属語で対応できる。しかし，日本語の助詞「の」は中国語の助詞「的」より使用範囲が広い。「の」は格助詞（所有格，対象格），並立助詞，準体助詞，

終助詞として用いられる。「的」は結構助詞と語気助詞としか用いられない。

2. 対応できるのは次の通りである。

- イ) 名詞, 代名詞, 一部の副詞につく格助詞「の」はそれらにつく結構助詞「的」と対応できる。
- ロ) 体言につく準体助詞「の」は結構助詞「的」と対応できる。
- ハ) 用言の連体形につき, 人, 物を表わす準体助詞「の」は結構助詞「的」と対応できる。
- ニ) 「…は…のだ」の中の準体助詞「の」は完了した行為の修飾的要素を強調する場合及び判断, 説明を表わす話し手の見方の場合(述語は一部の形容詞(日本語の形容動詞込み), 可能動詞+動詞に限る)「…是…的」の中の語気助詞「的」と対応できる。

3. 対応できないのは次の通りである。

- イ) 日本語の数詞につく格助詞「の」は「的」とは対応できない。
- ロ) 日本語の用言連体形につき抽象的な事を表わす準体助詞「の」は「的」と対応できない。
- ハ) 日本語の並立助詞「の」と対応する「的」はない。
- ニ) 日本語の終助詞「の」と対応する「的」はない。
- ホ) 動作の現在, 将来, 進行態などの修飾的要素の強調, 疑問, 根拠, 回想などの意を表わす「…は…のだ」の中の準体助詞「の」と対応する「的」の使い方はない。
- ヘ) 中国語の形容詞と動詞につく結構助詞「的」と対応する「の」はない。

福井工業大学教授林正己先生からいろいろな御指導と御励ましをいただいた。ここで謹んで林先生に厚くお礼申し上げます。

注: 中国語の品詞名

参 考 文 献

1. 林大(監修) 言泉 (小学館)
2. 周炎輝: 現代日語語法 (高等教育出版社)
3. 朱万清: 新日本語語法 (外語教学与研究出版社)
4. 岩波講座: 日本語7 文法II
5. 呂叔湘: 現代漢語八百詞 (商务印書館)
6. 黄伯榮, 廖序東: 現代漢語(下) (甘肅人民出版社)